

# 代替医療

## 最新ガイド

わが国のがん患者に比較的利用頻度の高いサプリメントとしてサメ軟骨があります。抗がん効果としては、動物実験などから、次の三つの可能性が考えられています。

一つ目は直接がん細胞を殺す作用、二つ目は免疫システムを活性化する作用、三つ目はがん組織の栄養血管を抑制する作用です。

では、ヒトでの科学的検証は、どうでしょうか。8月末に米国立医学図書館のデータベースを用いて検索した結果、臨床試験が3件報告されました。



大野 智 どの標準治療を行います。抗がん剤などの際に、サメ軟骨併用群(42人)と偽薬のプラセボ併用群(41人)に無作為に振り分け、生存率とQOLの比較を行いました。その結果、サメ軟骨の有効性を認めるような結果を得ることはできませんでした。この論文の著者らは「サメ軟骨は、進行がん(乳がん・大腸がん)患者において有効性は示唆されなかった」と結論づけています。

### 有効性はっきりしないサメ軟骨

一つ目は、サメ軟骨の安全性と有効性を調べるためにさまざまな種類の進行がん患者60人を対象に行われたものです。有効性に関しては、評価可能な症例50例中10例に12週間以上の病状安定を認めましたが、腫瘍が小さくなったり、消失した症例は1例もありませんでした。

安全性に関しては、有害事象が21件認められ、そのうち14件が悪心、おう吐、便秘などの消化器症状でした。この論文の著者らは「サメ軟骨は単独で使用した場合、抗腫瘍効果は認められず、QOL(生活の質)に関してもプラスにならない」と結論づけています。

二つ目は、腎細胞がん患者22人を対象に、1日あたり60ミリの投与群と240ミリの投与群で生存率の比較検討を行

っています。その結果、240ミリの投与群の方が60ミリの投与群と比べて、生存期間が延長されました。この論文の著者らは「サメ軟骨は、腎細胞がん患者において、高用量(1日あたり240ミリ)の内服の場合には、生存予後に関して利益をもたらす可能性がある」と結論づけています。

三つ目は、乳がん、大腸がんの患者を対象に行われたランダム(無作為)化比較試験です。抗がん剤などの標準治療を行います。抗がん剤などの際に、サメ軟骨併用群(42人)と偽薬のプラセボ併用群(41人)に無作為に振り分け、生存率とQOLの比較を行いました。その結果、サメ軟骨の有効性を認めるような結果を得ることはできませんでした。この論文の著者らは「サメ軟骨は、進行がん(乳がん・大腸がん)患者において有効性は示唆されなかった」と結論づけています。

なお、気を付けるべき点として、サメ軟骨の製品には、カルシウムが多く含まれている場合がありますので、骨転移などで高カルシウム血症になっているがん患者は摂取を控えたほうが賢明でしょう。

サメ軟骨は、ほかのサプリメントと比べて、ヒトでの臨床試験が比較的多く実施されていますが、がん患者への有効性は明白でなく、現時点では科学的根拠の集積段階といえます。

(金沢大学補完代替医療学特任助教)

**サメ軟骨**

【サメ軟骨】  
サメ軟骨は、創傷のため、1950年代から、試験などから、直接3つが考えられている(進行中も)では、ヒトでの試験の報告があり、と有効性を調べる大腸がん、16名、象に行われたもの週間以上の病状安定は1例もありません。うち14件が消化器「サメ軟骨は単独」も一つは

科学的に検証する  
科学的に検証する  
科学的に検証する

他の製品やサプリメント

本やパンフレットに出てくるサメ軟骨の記載では、臨床試験の有無をチェックしたい